

新しい図書館を

みんな
で

プロデュース

してみよう！



第1回 新中央図書館市民ワークショップを開催しました！

参加者のみなさま、ありがとうございました！

設計者（山下設計）からのプロポーザル案^{*}の説明の後、「みんなが集まる図書館をプロデュース」をテーマに、参加者のみなさまからたくさんの提案をいただきました。

日時：2024年11月24日（日）
13時30分-16時30分

場所：ひたちなか市役所防災会議室

参加者：23名

ひたちなか市から ワークショップの趣旨説明

市ではこれまでも、多様な視点からご意見をいただくため、聞き取り調査や市民ワークショップを実施してきました。今回のワークショップは、自分たちが新しい図書館のプロデューサーになったつもりで様々なアイデアを出し合い、設計者と共有していくという目的で実施しました。

設計者（山下設計）による プロポーザル案の解説

プロポーザル案は、次の4つを軸とした提案であるとの説明がありました。①市民がまちのことを知り、まちを愛するきっかけとなる図書館、②勝田駅周辺地区の賑わいに寄与するため、多方向から人々の流れを引き込む図書館、③様々な世代や利用目的の来館者がそれぞれ心地よい居場所を見つけられる図書館④まちの魅力、新たな本との出会い、利用者同士の出会いを生む仕組み（シビックリング）を持った図書館。

また、市の魅力を数多く知る参加者のみなさまだからこそ考えられる、「みんなが集まる図書館」のアイデアを設計に活かして行きたい旨の説明がありました。

^{*}令和6年4月から9月にかけて、市では、設計者選定のため、設計プロポーザルを行い、最優秀提案者として（株）山下設計を選定しました。



6班に分かれ、「みんなが集まる」図書館を考える

「ティーン（13~18歳）」、「子育て世代」、「働く世代」、「高齢者」、「観光客」、「現在図書館を利用していない方」の6つのターゲットを想定し、どのような場所・設備・イベント・サービスがあれば各ターゲットが集まる図書館になるかを考えていただきました。

「みんな」の具体例

ティーン	子育て世代	働く世代
高齢者	観光客	現在図書館を利用しない方

どのような



プロデュース

場所・設備 / イベント / サービス



また、併せて、新しい図書館のキャッチフレーズも考えていただきました。最後に、自分たちがどのような関わり方をしていけば、新図書館の賑わい・魅力の向上に寄与できるかについて、ご意見をいただきました。

- 当日の流れ -

1. グループワーク 1
2. 発表
3. グループワーク 2
4. 発表
5. グループワーク 3
グループワーク 1,2 の意見をまとめ、キャッチフレーズを決定
6. 発表
7. 全体でのディスカッション

各ターゲットが集まる図書館について、次のような意見が出されました。

ターゲット：【ティーン】

『君らしい使い方で「好き」が見つかる』

○勉強の場+勉強のやり方を教え合える・学び合える場。○高学年が低学年に勉強を教えるなど、学校の外での縦のつながりを作り出す図書館。○5教科以外の勉強ができる空間で、得意なことや好きなことを伸ばせる図書館。○読書や勉強以外にもビブリオバトルやボードゲームができる図書館。○声を出してもいい場所・雰囲気がある図書館。



ターゲット：【子育て世代】

『子どもと安心して行ける、子どもが安心して行ける図書館』

○子どもを連れていきやすい図書館。○読み聞かせの部屋や子どもを見守ってくれるような空間づくり。○授乳室やおむつ交換スペース、スロープなど子ども連れでも心置きなく行ける施設。○本を読むスペースと、子どもが動いてもいいスペースの行き来がしやすい図書館。○子どもが声を出したり走ったりしても心配のいらぬ工夫。○親子連れの方々を迎え入れてくれる図書館。

ターゲット：【働く世代】

『スキルアップできる、交流できる』

○スキルアップやリカレント教育に関する書籍を集めた本棚。○転職経験者や転職活動中の方が情報交換ができる場の提供。○地元企業が持ち回り展示ができるレンタルブース。○遅くまで図書館が開いていることや、本の返却ボックスがまちの様々なところにあるなど、忙しい働く世代に寄り添った図書館運営。○学びにつづけることや様々な人との交流をテーマに、働く世代が集まる図書館。



ターゲット：【高齢者】

『若返る図書館』

○高齢者が講師となり子どもたち向けの工作教室や自然教室など多世代交流ができる場。○ウォーキングイベントなどの開催により、高齢者が心身の若返りを目指せる図書館。○長時間滞在したくなるイベントや場所・設備、サービスの充実。○他の世代との間にも交流が生まれ、高齢者も心身共に若返ることができる図書館。○コミュニティバスでのアクセスや、ブックカートの設置など、図書館利用のハードルを下げる工夫。

ターゲット：【観光客】

『興味のあるコト・モノに出会えるひたちなか GATEWAY』

○公園を利用した屋外ステージ、フォトスポットなど SNS にあげたくなる場所づくり。○市に関連したテーマ（ネモフィラ、コキア、湊線、ほしいも、ロックフェス）のイベントを開催することで、市内外の人に図書館やまちを訪れてもらう。○図書館という名称を使わないことや、BGM を流すことなど、従来の図書館像とは違う印象とすることで、観光で訪れた人々が行きたくくなるような新しい図書館。

ターゲット：

【普段図書館を利用しない方】

『シビックゾーンひたちなか / 文化の森』

○本を読んでいなくても構わない空間。○市民や司書など他の人が、おススメの本を展示するイベントや棚。○いつもは開いていない時間帯に開催する「ナイト図書館」。○漫画コーナーの充実。○絵画、工芸品などのギャラリースペースを設置し、イベントや展示を多く開催。

